大山頂上碑の移設が完了

昨年の7月から行われていた大山頂上碑の移設作業が9月上旬に完了しました。元の頂上碑は戦後すぐに建てられ登山客に親しまれてきましたが、浸食による土壌の崩壊で石碑の南側が崖までの距離が30センチに迫っており、崩落の危険性が指摘されていました。

移設の音頭を取ったのは35年にわたり大山の頂上に緑を取り戻す「一木一石運動」を行ってきた「大山の頂上を保護する会（事務局：自然公園財団鳥取支部）」。寄付やクラウドファンディングなどで移設費用を募集し、昨年から移設作業に取り掛かりました。

新しい石碑は北に10メートルほど離れた場所に建設されました。大山に登山された方は是非ご覧ください。

【コラム：大山の頂上とは】

大山とは、西から弥山、剣ヶ峰、天狗ヶ峰、象ヶ鼻、三鈷峰などのピークが連なる山体の総称です。大山の標高は1729メートル。これは大山の最高地点、剣ヶ峰の標高です。時々ガイドブックなどに1709メートルと出ていますが、これは昔から大山の頂上とされ神事などが行われていた弥山の標高です。頂上碑も弥山にあります。地元で大山頂上というと弥山を指すことが多いので混乱してしまいますね。※登山で行ける最高地は弥山までです。

明治中ごろ、大日本帝国陸地測量部が弥山山頂に三角点を置いて標高を測定しました。その時の高さは1713メートルでした。戦後は国土地理院が測量を行い、1961年8月に弥山の東100メートルの現在地に三角点を移しました。測量の結果は1711メートルでした。

その後、2000年の鳥取県西部大地震により頂上付近が崩落し、三角点の再設置の結果1709メートルになりました。ちなみに大山の最高地点、剣ヶ峰は、1973年に空中測量によって1729メートルと測定され現在に至っています。

夏期　自然ふれあい事業　活動報告

○大山・秋の花観察会

開 催 日： 9月19日（土）

大山の秋の花を探して豪円山周辺を散策しました。コロナ対策のため、検温や消毒などを実施。オミナエシなどの花の観察だけでなく、大山に伝わる願掛けの岩の前でコロナの終息と参加者の多幸を祈りました。

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。
予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。
裏面にイベント情報を掲載しています。

大山の森で見つかる繭

晩秋、木々の葉が落ちるころ、大山の森を散策していると大きな繭が見つかることがあります。それはたぶんヤママユガ科の繭。質問されることが多いその繭と蛾についてご紹介します。

ヤママユガ科は大きな翅を持つ、体格が立派な蛾が多いグループ。蚕（かいこ）に近い種類で、幼虫は丈夫な糸を吐き、それぞれ独特な繭を作ります。成虫は口が退化しており食べ物をとりません。

晩秋の大山の森で交尾するウスタビガ
左オス、右メス

○ウスタビガ（11月羽化、開張 100～130 ミリ）：
幼虫はクリ、クヌギ、サクラ、ケヤキ、ニレなど様々な木の葉を食べます。枝から釣り下がるユニークな形の繭はヤマビシャク、ツリカマスなどの別名を持ちます。かなり固い袋状の繭の上には最初から羽化後の脱出口があり、下にはそこから侵入した雨が抜けるように穴が開いています。

○ヒメヤママユ
（10～11月羽化、開張 85～105 ミリ）：
幼虫はサクラ、ナシ、ウメ、クリ、クヌギ、クルミなど様々な木の葉を食べます。繭は網目状でさなぎが透けて見えます。クスサンの繭より小さくて柔らかいです。

ヤママユガのメス

ヒメヤママユのオス

○ヤママユガ（8～9月羽化、開張 115～150 ミリ）：
幼虫はミズナラやクリなどブナ科の木の葉を食べます。繭は薄緑色で上質な糸が取れるので、日本では 18 世紀末ごろから一部で飼育されるようになりました。天蚕とも呼ばれ、その糸が珍重されています。

○クスサン（9～10月羽化、開張 100～130 ミリ）：
幼虫はクリ、クヌギ、カキ、リンゴ、イチョウなど様々な木の葉を食べます。繭は固い網目状でさなぎが透けて見えるのでスカシダワラと呼ばれます。昔は幼虫の絹糸腺からテグス糸を採りました。

クスサンの交尾　左オス　右メス

繭を作るのは蛾だと思われる方が多いと思いますが、蝶の仲間でも繭を作るものはいます。蝶も蛾も同じ鱗翅目の昆虫で、人間が恣意的に分けたにすぎません。日中活動する美しい蛾もいますよ。
気持ち悪がらずに観察してみてくださいね。

※ヤママユガとクスサンの写真はウェブサイトから借用しました。

森のネズミ　アカネズミとヒメネズミ

今年、令和2年（西暦2020年）は十二支のネズミ年にあたります。ネズミというとドブネズミやクマネズミ、ハツカネズミといった家ネズミを思い出しますが、日本にはずっと種類も数も多い野ネズミたちが住んでいます。大山の森にももちろん野ネズミが住んでおり、その代表がアカネズミとヒメネズミです。

アカネズミは明るい林や畑にすみ、大きな後脚でジャンプしながら、夜間、地表を活発に動き回ってエサを探します。木には登らず、地表に落ちた穀類、どんぐりなどの植物の種子をおもに採食します。体重は5，60グラムで背中は赤、腹側は白い毛におおわれたきれいでかわいいネズミです。

森で見つける穴が開いたオニグルミの実は彼らの仕業です。若い個体は適当に穴を開けますが、慣れてくるとオニグルミの殻の一番薄い部分2か所に穴を開けるようになります。

もう一種類、大山の森にはヒメネズミというネズミが暮らしています。見かけはアカネズミそっくりですが、大きさが2回りほど小さいネズミです。アカネズミと違って主に樹上で生活しています。

オニグルミに食痕

この2種類のネズミが森の中の重要な役目を果たしています。このネズミたちはブナやミズナラ、トチといった木の実を運んで地面に隠して冬の保存食にするという習性を持っています。隠した実で食べられなかったものが春に芽吹くのです。またネズミたちはキツネやテン、フクロウといった肉食動物の糧になり、森の生態系を支えています。

ネズミ年は子年と書きます。「子」には、ネズミがすぐに成長し繁殖することから子孫繁栄の意味があります。またネズミは縁結びで有名な大国主命（大黒様）の神使でもあります。これは大国主がオオナムチと呼ばれていた若い時代に、草原で火に囲まれる危機からネズミが地下に穴があることを知らせて救った神話にちなみます。
大山は大国主命が鎮座する聖なる山です。大山の森にすむネズミたちにも思いをはせてもらえるとうれしいです。
ただ大国主を救ったネズミは森に住むアカネズミではなく、草原に住むカヤネズミかハタネズミだと思いますが。

※アカネズミの写真（撮影　下山孝）は「アカネズミ　北摂の生き物」HP よりお借りしました。

ーイベント情報（1月～3月）ー

■自然公園財団のイベント

〇スノーシューで行く大山・幻の滝（稚児滝） 開 催 日：1月9日（土）9:00～12:00 会　　場：豪円山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参 加 費：~~1500円~~ **無料**	 かつて呼瀧山と呼ばれた豪円山。 その幻の滝を見に行きます。 垂直の岩壁に張り付く氷が神秘的な美しさ。大山の隠れた名所です。 スノーシュー歩行距離約2キロ 定員15名
〇幻の御旅所？から絶景を見るスノーシューツアー 開 催 日：1月23日（土）9:00～12:00 会　　場：　大山町　大山寺金門周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参 加 費：~~1500円~~ **無料**	かつて巨大な扁額が掲げられた金門周辺には忘れ去られた遺跡が点在します。知られざる遺跡にスノーシューで挑戦。風穴と呼ばれた巨大な氷室の底に下りたり、御旅所跡と思われる高台の平坦地から美保湾を見下ろします。 定員：15名
〇スノーシューで行く　願掛け地蔵へ願いを込めに 開 催 日：2月6日（土）9:00～12:00 会　　場：金門・賽の河原・寂静山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参 加 費：~~1500円~~ **無料**	かなえたい願いはありますか？大山に伝わる願掛けの方法で願掛け岩とそのそばに佇む地蔵まで願いを込めに行きましょう。 スノーシュー歩行距離約3キロ。 定員15名
〇大山の森で冬芽探し 開 催 日：2月27日（土）9:00～12:00 会　　場：大山寺阿弥陀堂周辺の森 集合場所：自然公園財団事務所前 参 加 費：~~1500円~~ **無料**	 春の気配を探しにスノーシューを履いて大山の森を散策します。膨らみ始めた冬芽やつぼみを観察し、植物たちの冬越しの知恵を学びます。 スノーシュー歩行距離約2キロ 定員15名

※令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費補助金の交付を受けましたので、
イベント参加費を**無料**といたします。ぜひご参加ください。

一般財団法人　自然公園財団　鳥取支部　大山事業地

〒689-3318　鳥取県西伯郡大山町大山40－33
大山ナショナルパークセンター　1階
TEL:0859-52-2165　FAX:0859-52-2370
URL http://www.bes.or.jp/daisen/